

またまた今年も確認。

ハシナガイルカの子どもを連れたミナミハンドウイルカ

2017年8月11日、島のガイドさんから「今年もハシナガイルカの子どもを連れたミナミハンドウイルカを見たよ」との連絡をいただきました。2013年から連続して観察されているこの事例ですが、毎年夏になると目撃情報がOWAに寄せられます。

過去の事例より、ハシナガイルカの子どもと思われる個体と同伴しているミナミハンドウイルカはメス個体が多い傾向にあります。具体的には下のグラフで示したように、メスが4例、性別不明が3例という結果になっています。

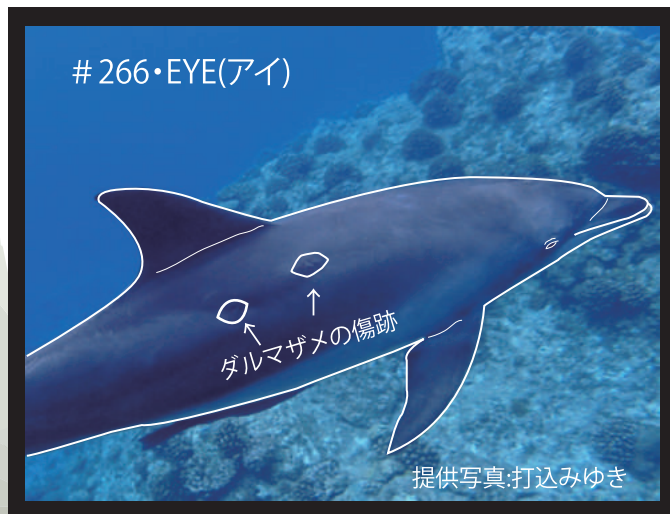
ハシナガイルカの子どもと同伴していた
ミナミハンドウイルカの性別について



一昨年は授乳している姿も確認されましたが、目撃した方の話によると、今年も同じような行動が見られたようです。

また、ウォッチング事業者さんのブログなどを拝見すると、恐らくハシナガイルカを連れていたのは #266 という個体だと思われます。性別は不明、右体側の背ビレ直下にある丸い跡が特徴で、2010年から確認されている個体です。先月の3日に行ったイルカ調査では、8頭のミナミハンドウイルカに出会い、#266の姿も確認できましたが、その時にはハシナガイルカの子どもと思われる個体の姿はありませんでした。

一般的に子供と親以外の個体が同伴していることを「乳母行動 (Alloparental behavior)」、実の親が不在の状況で、ある個体が他個体の子供を世話したり、育てたりすることを「養子とり (Adoption)」と呼んだりします。



数々の哺乳類でこうした事例について報告されていますが、特に鯨類 (ハクジラ亜目) の養子とりに関する報告は少なく、野生や飼育下のハンドウイルカで数例あるのみです。

これまでの小笠原での目撃例は7月から9月までの間となっていて、ハシナガイルカの出産時期とも重なっています (個体識別調査のデータより)。親とはぐれた子供を助けようとしたのか、それとも誘拐してしまったのか? 今後このような事例が観察されるかもしれません。これは非常に珍しい事例ですので、なるべく多くの写真や動画のデータがあると、イルカの生態解明のために役立ちます。

もしこの記事をご覧になって、写真や動画を持っているという方がいましたら、OWAまでご連絡ください。どうぞよろしくお願いいたします。

ハシナガイルカの新生児 (写真中央)

2017/8/5 撮影

